

令和4年度 学校経営環境分析書

蒲川中学校区 校番 23 学校名 蒲川中学校

1 学校の内外環境の分析

外部環境	O (支援的要因)	S (強み)	内部環境
	T (阻害的要因)	W (弱み)	
	<p>【地域・保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域や保護者が協力的で、緊密な関係を構築でき、教育活動に対してゲストティーチャーなどの協力や支援が得やすい。 ○わが子は地域が好きだと思ふ保護者が80%を越えている。 ○豊かな自然や素晴らしい伝統、教育活動に活用できる施設が多い。 ○とびしま検定、とびしま探訪など、ふるさと学習で活用できる教材が多い。 ○小学校と中学校が同じ敷地にあるとともに、地域と協力して様々な行事に取り組みやすい。 	<p>【学校組織】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○少人数のため、個に応じた指導や個別指導を行いやすい。 ○教職員間の情報共有などの連携はスムーズである。 ○小回りが効きやすく、新しい活動を企画しやすい。 <p>【生徒の実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○部活動や行事で異学年と協働でき、学年を超えて仲が良い。 ○一人一人に役割を与えられ、果たしている。 ○協力し助け合って活動することが多い。 ○問題行動はほとんどない。 	<p style="text-align: center;">支援的要因と強みを生かした活動・取組は</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地域の歴史や人材、施設を活用したふるさと学習を行い、地域での活動を発信する。 ○「教えて考えさせる授業」をベースとし、個に応じた指導を行いながら、確かな学力を定着できる授業改善を図る。 ○個別指導を推進し、学力の定着を図る。 ○ICT機器を活用し、個に応じた指導や家庭学習を充実する。 ○小学校等と連携し、自己肯定感を高める活動を推進する。
	<p>【地域・保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○少子高齢化が進行し、児童・生徒数の減少は深刻である。 ○バスで通学している生徒が多く、バスの時刻によって活動が制限されることが多い。 ○地域や保護者との緊密で協力的な関係は重要であるが、コロナ禍の中で地域行事が少なくなり、地域の思いや要望に応えられない場合が生じている。 ○校外学習や部活動の際、交通手段が限られるとともに、交通費などの経費が高く、活動が制限される。 	<p>【学校組織】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教職員数が少ないため、一人当たりの業務の負担が大きく、偏りやすい。特に部活動顧問の負担は大きい。 ○生徒を支援することが当たり前になり、生徒の主体性を育成する取組が少ない。 <p>【生徒の実態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○少人数のため人間関係が固定化されやすく、問題が生じると関係修復が困難である。 ○切磋琢磨する機会が少なく、学習面において自主性や積極性が育っていない。 ○生徒一人一人の役割が多く、リーダーがいない時の集団での活動は難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業や部活動、学校行事など日々の活動について、生徒自身が目的や意義を考え、その取組を振り返り評価することで、今後の取組をより良くするサイクルを目指す。 ○人間関係をより良くするために、学級や部活動において自己開示できる集団づくりを目指し、自己肯定感を高める取組やソーシャルスキルトレーニングなどを積極的に取り入れる。 <p style="text-align: center;">阻害的要因と弱みを克服する活動・取組は</p>

2 重点課題

- 積極的な生徒指導を推進し、「自尊感情・自己肯定感の育成」、「自己開示できる集団づくり」を目指す。
- 「教えて考えさせる授業」を推進し、ICTを活用した授業改善及び家庭学習を充実させることで、確かな学力の定着を図る。(進路選択できる学力)
- 特別支援教育を推進し、「授業のユニバーサルデザイン化」、「特別支援学級生徒の進路実現」を目指す。